

心癒やす琴の音色と美しい歌声

公立刈田総合病院で第44回ロビーコンサート

1月15日、「第44回ロビーコンサート」が公立刈田総合病院で開催されました。この日は、白石高等学校箏曲部と合唱部の生徒など16人が来院。入院患者やその家族など約30人の前で、「夕やけこやけ」「花は咲く」など計6曲を、琴の演奏や合唱で披露しました。

来場者は、琴の演奏や合唱に合わせて、歌詞を口ずさんだり、手拍子を打ったりするなど、楽しいひとときを過ごしていました。同病院では、演奏や歌声などを披露していただける方を募集しています。同病院情報企画課(☎25-2145)までご連絡ください。



▲琴の演奏に合わせ、合唱を披露する白石高の生徒たち

園児たちをダンスの世界へ誘う

第一幼稚園でダンス幼稚園

1月17日、観る人が自由に移動してさまざまなダンスを観賞する「ダンス幼稚園」を第一幼稚園で開催し、園児や保護者など約150人が参加しました。

この事業は、東日本大震災の被災地支援を目的にした文化庁の「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」の一環。この日は、県内外で活動するダンサーなど約20人が、園庭や室内を舞台にタップダンスやコンテンポラリーダンスなどを披露しました。戦隊ヒーローによる体操コーナーもあり、大人も子どもも一緒になって体を動かすなど、楽しい時間を過ごしていました。



▲戦隊ヒーローと一緒に笑顔でダンスを踊る園児たち

模擬投票で選挙の意義を学ぶ

白石第一小で「選挙出前教室」

1月23日、選挙の大切さを知ってもらおうと、県選管と白石市選管主催の「選挙出前授業」が白石第一小学校で行われ、同小の6年生94人が参加しました。この日は、選挙の仕組みを学んだ後、卒業旅行を争点にした模擬投票を体験。児童たちは、行き先や日程、費用を比較しながら、真剣に投票先を選んでいました。県選管の担当者から20～30代の投票率が低いという説明を受けた児童たちは、「投票に行かないと若い人の意見が反映されない」「20歳になったら必ず選挙に行きたい」と話すなど、選挙の大切さを実感していました。



▲実際の投票箱を使って模擬投票をする児童たち

指先に力を込めて真剣勝負！

放課後児童クラブで紙相撲大会千秋楽

2月6日、第一児童館・白石第一小学校放課後児童クラブの「紙相撲大会千秋楽」が第一児童館で行われました。この大会は、室内遊びが多くなる冬の間、一人一人が工夫しながら遊べるようにと平成18年から毎年実施。紙相撲の力士は、児童一人一人が約10cmの厚紙を切り抜いて顔やまわしを描いて作りました。

1月20日からの総当たりの結果、幕下の部は、佐藤あおいさんの「ぶしの山」と佐々木海碧さんの「くも」、幕内の部は、武田瑞生くんの「黒」と半沢直也くんの「なおドラゴン丸」がそれぞれ優勝しました。



▲仲間たちが見守る中で行われた「紙相撲大会千秋楽」

成人おめでとう！ 何事にも一生懸命に！

白石市手をつなぐ育成会 成人を祝う会

1月19日、障がいや有する子どもとその家族でつくる「白石市手をつなぐ育成会」(巨泉猛会長)が、成人を祝う会を中央公民館で開催し、新たな門出を祝いました。

新たに大人の仲間入りをしたのは、角田真理子さんと氏家夏美さんの2人。巨泉会長は、「何事にも一生懸命挑み続けてください」とエールを送りました。この日は、新成人の2人が書き初めを披露した後、両親への感謝の言葉や決意を述べました。また、障がいや有する子どもたちを中心としたダンスユニット「ちゃれんじど」によるダンスなども披露され、みんなで成人を祝いました。



▲書き初めを披露する新成人の角田さん(左)と氏家さん(右)

100歳おめでとうございます

半田キミさんに松竹梅敬老祝金を贈呈

2月7日、満100歳を迎えた半田キミさんを風間市長が訪ね、祝詞と松竹梅敬老祝金を贈り長寿を祝福しました。キミさんは神奈川県生まれで、若いころは、はた織りの仕事に従事。結婚後は、畑仕事に励みながら8人の子どもを育て、現在は孫が19人、ひ孫が35人います。平成17年12月から特別養護老人ホームえんじゅに入所し、おだやかに毎日を過ごされています。好きな食べ物は果物や野菜類というキミさん。長生きの秘訣は、「畑仕事をこつこつと続け、体を動かしてきたことではないでしょうか」と、ご家族が話されていました。



▲キミさん(左)への祝詞を読み上げる風間市長

高齢者・障がい者などの孤独死防止へ連携

白石郵便局と安心生活見守りに関する協定

2月12日、本市と白石郵便局は、「安心生活見守りに関する協定」を締結しました。市役所での締結式には、白石郵便局の大和田尚局長と風間市長などが出席し、協定を締結。大和田局長は、「地域の皆さんが安心して生活を送れるよう郵便局も協力します」とあいさつ。風間市長は、「協力に感謝します。高齢者以外の世帯でも異変に気付いた際は、連絡をお願いします」と述べました。

協定には、郵便受けに新聞や郵便物がたまっていたりするなど、気になることや異変に気付いた場合、市に連絡することなどが盛り込まれました。



▲協定を結び握手する大和田局長(右)と風間市長

100歳おめでとうございます

山田與市さんに松竹梅敬老祝金を贈呈

2月13日、満100歳を迎えた山田與市さんを太齋副市長が訪ね、祝詞と松竹梅敬老祝金を贈り長寿を祝福しました。與市さんは郡山生まれで、若いころは、家業の農業に従事。結婚後は、6人の子どもを育て、現在は孫が10人、ひ孫が13人います。

上郡山自治会長や上郡山地区の農家組合長を務められたほか、地域の子どもたちにしめ縄作りを指導されるなど、長きにわたり、地域のためにご尽力された與市さん。長生きの秘訣は、「規則正しい生活を送ることではないでしょうか」と笑顔で話していました。



▲ご家族でご長寿を祝いました